

教育プログラムの概要及び採択理由

機 関 名	東京医科歯科大学	申請分野(系)	医療系
教育プログラムの名称	歯科医学における基礎・臨床ボーダレス教育		
主たる研究科・専攻名	医歯学総合研究科顎顔面頸部機能再建学系専攻		
(他の大学と共同申請する場合の大学名、研究科専攻名)			
取組実施担当者	(代表者) 森田 育男		

[教育プログラムの概要]

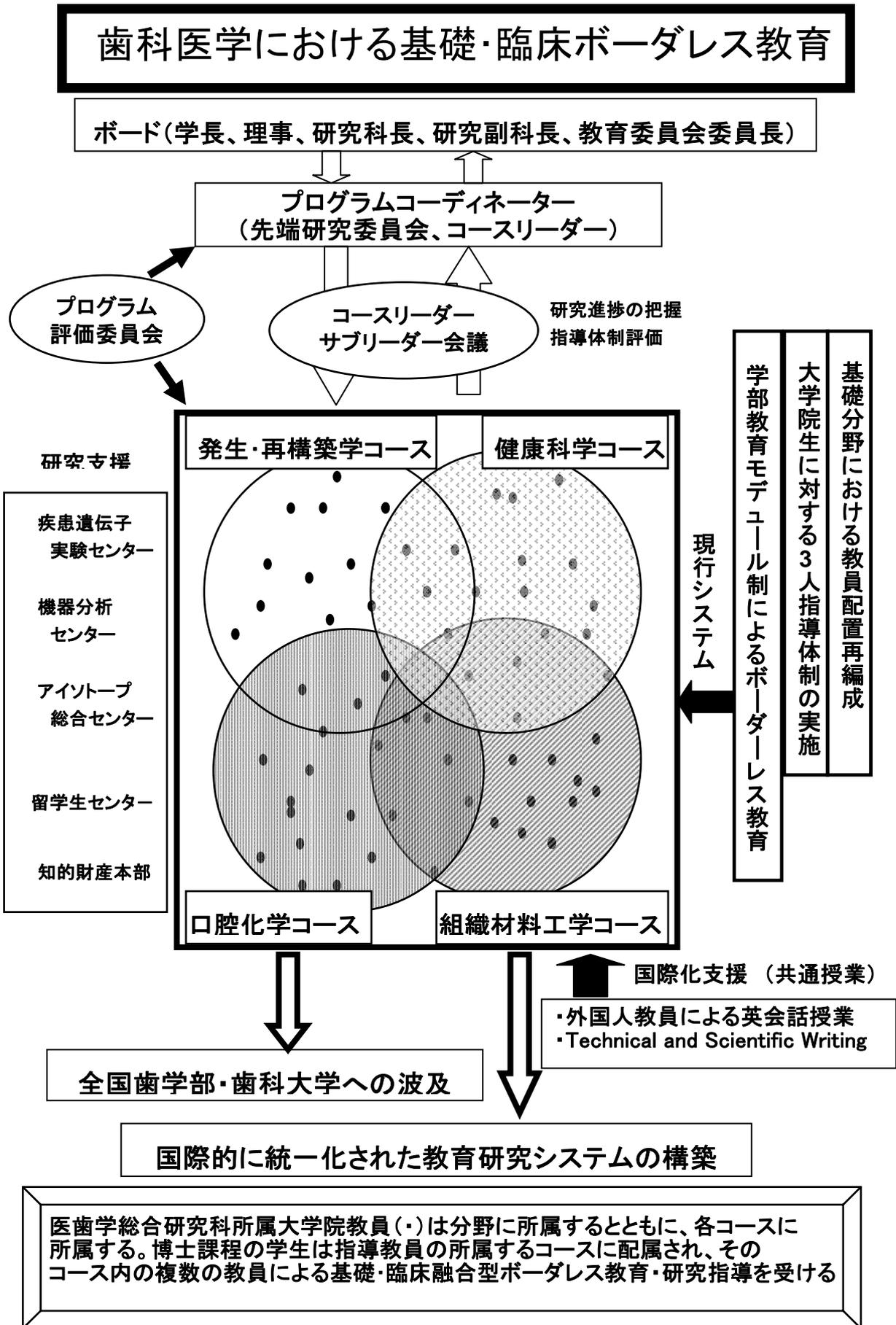
現在、わが国においては少子、高齢化社会の到来により、口腔疾患の変化や患者のニーズも多様化しており、歯科医療の新たな対応が要求されている。さらに、最近の歯科再生医療に代表されるように、現在の歯科医学は、基礎生物学、基礎材料学、基礎歯科学、臨床歯科学の領域を融合することにより発展しており、大学院教育も、その対応に迫られている。これらの要求に対し、東京医科歯科大学医歯学総合研究科(歯学系)は従来の教育に加え、新たな教育・研究分野であるゲノム情報を基盤として口腔ガン、歯周病などの口腔疾患の遺伝的背景の解析およびナノサイエンスをもとにした再生医療・新規治療、及び医歯学総合研究科の特長を生かし、口腔疾患の全身への影響などの教育・研究を積極的に行い、歯科医学の発展に中心的な役割を果たし得る人材の育成に寄与している。現在、東京医科歯科大学医歯学総合研究科(歯学系、4年制一貫博士課程)に所属する学生は、臨床系23分野、基礎系20分野の研究室に所属しているが、その教育は平成18年より所属する分野の指導教員以外に、医学系、難治疾患研究所、生体工学研究所を含めた異なる分野の教員2人で指導する**3人指導体制**の試行が開始され、さらにその実績のもと平成20年4月より施行に移行した。また、学部教育においては**モジュール制の導入**により、分野間を越えた学部教育が行われている。しかし、最近の医科学の進歩は、医工学、translational医学、医学倫理に配慮した医学研究など、さらに学際的になっており、分野を越えた、基礎・臨床の枠を越えた、より体系だった教育システムの確立が急務となっている。

本取組は、このような現状に鑑み、これまでの実績を基盤にして、**「デンタルサイエンス」**をキーワードに、**国際的に統一化された教育研究システムの構築**を目指し、**新たに、基礎・臨床融合型ボーダレス教育を行う大学院教育コースを設置するプログラム**である。

[取組内容]

- (1) 大学院医歯学総合研究科(歯学系)にプログラムコーディネーターのもと、「発生・再構築学コース」「健康科学コース」「口腔化学コース」「組織材料工学コース」の4コースを開設する。**(コースの新設)**
- (2) 医歯学総合研究科に所属する大学院教員は分野に所属するとともに、個別に4コースのいずれかに所属する**(教員個々の独立性の確保)**。
- (3) 医歯学総合研究科に入学した学生は、その主たる指導教員の所属するコースに所属し、全コース共通科目(初期研究研修プログラム、外国人による国際化教育、Technical and Scientific Writing、特許・利益相反)の履修と、その所属するコースの定める授業を履修し、単位を取得する。**(大学院教育の実質化、国際化支援)**
- (4) 学生には研究テーマ決定時に、所属するコースのコースリーダー・サブリーダー会議により複数指導教員3人(必ず、基礎と臨床の教員を含む)が決定される。このグループはテーマのブラッシュアップと研究指導を、WebCT(秘密保持のため)を用いて行うとともに、1年毎に研究進行状況ヒアリング、博士課程学位論文作成のための指導を行う。**(ボーダレス教育)**
- (5) プログラムコーディネーターは、各コースにおける重要研究課題をそのコースのリーダー、サブリーダーと共に探索、検討し、最重要テーマとして設定する。**(社会の要望、質の高い研究課題の設定)**
- (6) 各コースのリーダー、サブリーダーは、コース内の各研究の進捗状況を把握するとともに問題点を抽出し、プログラムコーディネーターと協議、解決する。また、優秀な学生の国外学会発表支援、教員のインセンティブ付与のため、各コース内の個々の研究の評価を行いプログラムコーディネーターに推薦し、ボードに進言する。**(評価、インセンティブ付与)**
- (7) 厳正な評価のもと、優秀な学生に関しては、医歯学総合研究科として留学のための支援を行い、将来の教員への道を拓く。**(国際化支援、キャリアパス)**
- (8) 外部評価委員を含むプログラム評価委員会による評価を毎年行い、プログラムコーディネーターは、その評価のもと改善を行う。**(厳正な評価によるプログラムチェックと改善)**
- (9) プログラムコーディネーターは、本プログラムの全国の歯科大学、歯学部への波及を目的とした広報活動をホームページ上で行うとともに、大学間連携のためのプログラムの作成を行う。**(大学院教育の普遍化、国際的に統一化された教育研究システムの構築)**

履修プロセスの概念図（履修指導及び研究指導のプロセスについて全体像と特徴がわかるように図示してください。）



<採択理由>

大学院教育の実質化の面では、「世界をリードする研究者」、「アカデミックドクター」の養成のために、基礎・臨床融合型の充実した教員組織が整えられ、また活発なファカルティ・ディベロップメントが実施され、きめ細かい自己点検・評価体制が構築されている点は評価できる。

教育プログラムについては、基礎研究的素養を習熟した臨床医、臨床研究現場での問題提起と問題解決を自ら実践しうる創造的人材の養成のため、「発生・再構築学」、「健康科学」、「口腔化学」、「組織材料工学」の4つの大学院教育コースを設置して、講義・演習・実習等の科目をコース別に再編するとともに、基礎・臨床横断的な教員からなる3人指導体制の下で、WebCT等を利用しつつ、基礎から臨床までの教育・研究指導を行おうとしており、これまでの実績からみても実現性の高い取組として評価できる。また、全コース共通科目として外国人教員による国際化教育、**Technical and Scientific Writing**等が提供されることにより、大学院生の国際化、学際化、更には大学院教育の実質化の面で高い効果が期待できる。本教育プログラムの大学全体の中での位置付けも明確にされており、今後の展開が大いに期待できる。ただし、臨床と基礎研究を両立できるよう指導体制と運用上の工夫が望まれる。